

1 学会・研究会及び研修会への出席 (R5. 4～R6. 3)

年 月 日	学会・研究会・研修会の名称	開催地	出席者数
R5.5. 15	医薬品医療機器の品質確保に関する研修	Web 開催	5
5. 16	医薬品医療機器の品質確保に関する研修	Web 開催	5
5. 24	医薬品医療機器の品質確保に関する研修	Web 開催	5
5. 25	食品衛生検査施設の適正業務管理基準 (GLP) に関する研修会	Web 開催	11
5. 26	医薬品医療機器の品質確保に関する研修	Web 開催	5
6. 15	食品微生物検査実習 (初級 2 日間)	東京都	1
～ 16			
8. 3	サイエックス社「機器のキャリブレーションならびにメンテナンス」	東京都	1
8. 25	全国食品衛生監視員協議会第 63 回関東ブロック研修大会	新潟市	1
9. 5	地域保健推進事業に係る第 1 回関東甲信静ブロック会議・講演会	Web 開催	6
9. 20	健康食品検査に関する技術研修	横浜市	1
～ 21			
10. 20	全国食品衛生監視員研修会	東京都	1
11. 9	第 60 回全国衛生化学技術協議会年会	福島市	3
～ 10			
11. 24	地衛研近畿支部自然毒部会研修会	Web 開催	4
11. 27	食品 GLP に係る研修会	前橋市	8
R6.2. 9	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学部会	浜松市	2
3. 12	食品内で発見される昆虫等に関する検査技術研修会	Web 開催	1
3. 15	精度管理研修会 (国立衛研)	当所	11
3. 19	群馬県地域保健研究発表会	前橋市	1

2 当所で受け入れた視察、研修

年 月 日	団 体 名	人数	目 的
R5.7. 27	夏休み親子科学教室	43	体験型研修
8. 22	インターンシップ研修 (食品・生活衛生課)	2	見学・研修
8. 26	インターンシップ研修 (薬務課)	2	見学・研修
9. 7	産学官連携による食の安全理解促進事業 (桐生大学)	3	研修
11. 14	産学官連携による食の安全理解促進事業 (高崎健康福祉大学)	47	見学・研修

11.	22	産学官連携による食の安全理解促進事業 (高崎健康福祉大学)	50	見学・研修	
	12	20	太田記念病院「地域保健研修」	2	見学・研修
R6.1	9	群馬大学医学部保健学科	35	見学・研修	
2.	20	食品衛生管理者登録講習受講者(全国食 肉学校)	40	出張講座	
3.	15	令和5年度精度管理研究会	26	研修	

3 紙上・学会等での発表

学会・研修会等

鰯を対象とした「LC/MS による動物用医薬品等の一斉試験法Ⅰ(畜水産物)」変法による妥当性評価試験：大島裕之、小池有理子、関慎太郎、中村泰三、丸山章代、第 60 回全国衛生化学技術協議会年会、2023 (11 月)

当センターでは、「HPLC による動物用医薬品等の一斉試験法Ⅰ(畜水産物)」に準じた試験法を用いて残留動物用医薬品検査を行ってきた。令和3年9月に「LC/MS による動物用医薬品等の一斉試験法Ⅰ(畜水産物)」(以下「通知試験法」という)が新たに発出され、上記試験法が廃止となった。また、同年12月に当センターの LC-MS/MS を更新したことから、新たに SOP を作成し、鰯を対象とした妥当性評価試験を行った。

残留農薬検査で使用する GC-MS/MS に関する起爆注入の必要性について：岡田智行、小淵和通、野本朋子、庄司正、令和5年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会、2024 (2 月)

GC-MS/MS のカラム交換、イオン源洗浄などによるメンテナンスの後に実施している複数の食品由来のマトリクス溶液を用いた起爆注入について、感度の安定化のために必要な起爆注入の回数について検討した。また、感度が安定した後に実施したいくつかの食品中の残留農薬検査において、それぞれの検査対象の食品由来のマトリクス溶液を用いた起爆注入の効果について検討した。

群馬県内流通加工食品中のアレルゲン「大豆」の含有量実態調査：大島裕之、小淵和通、丹羽祥一、関慎太郎、見城信子、浅見成志、群馬県地域保健研究発表会、2024 (3 月)

特定原材料の検査法は、定量検査法と定性検査法が通知4)されており、群馬県は行政検査として、年80検体の特定原材料の検査を実施している。しかし、「特定原材料に準ずるもの」は、検査法が通知されておらず、群馬県の行政検査の対象外となっているため、当所において大豆の検査実績はない。また、流通している加工食品中の大豆アレルゲンの含有量に関する報告が確認できなかったことから、群馬県内に加工食品中の大豆アレルゲンの含有量を明らかにするために、実態調査を行った。

健康危機管理のための植物自然毒分析法の検討とスイセン様植物の分析：大島裕之、関慎太郎、高橋恵美、石川貴秀、吉田岳史、群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター業績発表会、2024 (3 月)

平成31年群馬県内で発生したイヌサフランの誤食による死亡事例を契機に、当センターでは植物性自然毒の有毒成分の分析法の検討を行ってきた。この検討結果に加え、今年度前橋市内において発生したスイセン様植物による食中毒事案での依頼分析の結果も報告する。

群馬県に流通する加工食品に含まれるアレルギー「くるみ」の実態調査：永井裕美、大島裕之、齋藤美香、茂木芳美、中村泰三、丸山章代、群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター業績発表会、2024（3月）

「くるみ」によるアレルギー症例数の増加等を踏まえ、令和5年3月に食品表示基準が一部改正され、「くるみ」は義務表示である「特定原材料」に追加された。そこで、県内に流通する加工食品を購入し、加工食品中のアレルギー「くるみ」の定量及び定性検査を行ったので報告する。